

研究活動 I

野田 悟

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書)						
(学術論文)						
二十世紀金石書画家—韓登安 (1905—1976)研究 (中国語)	単	2005・6	中国美術学院 修士論文	当年は丁度、韓登安生誕100周年に当 たり、韓氏は西泠印社に対して、卓越し た貢献をしており、また現代篆刻史上に おける代表的人物の一人である。二十世 紀60年代、西泠印社の復活活動におい 中心的に動き回り、現在の天下第一名社 にまで押し上げた。また彼の書画篆刻に おける造詣は非常に深く、今でも韓氏を 慕う弟子は多く彼らは現在の中国篆刻界 を支えている。韓登安研究の主な研究の 見出しは以下のとおり。 1、緒論 2、韓登安的生平事跡 3、韓 登安の書畫及詩文藝術 4、韓登安の篆 刻藝術 5、年譜 6、結論		202
韓登安の篆刻藝術 (中国語)	単	2005・8	『西泠印社』誌 (浙江省杭州市)	これは修士論文の一部を修正を加えて 掲載したもので、韓登安は西泠印社100 年を越える歴史の中で唯一の総幹事を務 めた人である。その貢献度と書画篆刻の 実力は社の中では他を寄せ付けない実力 を持ちながらも、病弱な体質と中国国内 の政治の影響により、表舞台に出れない 所が今でも影響している。そこで一人の 外国人からの観点から、特に彼の篆刻芸 術に焦点を置き、4つの変遷期を分析し、 また韓氏が当時使用していた工具につい て考察した内容を論じている。		9
韓登安年譜 (中国語)	単	2005・8	『西泠印社』誌 (浙江省杭州市)	本編は修士論文の第5章の部分をページ数 の関係により、『録』、『文献資料引證』 を削除して記載した。西泠印社史にも記 されていないものも多く執筆している。		8
吾衍與其《學古編》之研究 (中国語)	単	2009・5	中国美術学院 博士論文	篆刻芸術の出現、発展、繁栄はすべてそ れらの時代と切り離すことはできない。 またそれらの時代の政治、経済、文化の 環境は密接な関係があり、他の学術との 結びつきは紀っても切り離すことはでき ない。この『學古編』は現代初めの著名 な学者吾衍によって書かれた中国古代の 印学理論基礎を築いた著作である。しか しながらこれらの方面の文献記載は非常 に少なく、これまでのいくらかの定説を覆 した博士論文となった。見出しは以下の とおり。 1、緒論 2、吾衍與其家世 3、藝術 與交友 4、《學古編》版本考察 5、結 語。		221
《學古編》版本考評 (中国語)	単	2010・5	『美苑』魯迅美術學 院學報 (遼寧省瀋陽市)	これは自身の博士論文の第4章の部分 をページ数の関係上、16000余字を7000 余字にまで削り、修正を加え掲載した。 1、近現在研究綜述 2、《學古編》版 本概述 3、《學古編》版本源流考の順 にて執筆している。		5
吾衍『學古編』の版本とその	単	2013・3	高野山大学論争	元の吾衍が大徳四年(1300)に著した『学		22

研究活動Ⅱ
野田 悟

著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所, 発表 雑誌又は 発表学会等 の名称	概 要	編者・著者 名 (共著の 場合のみ記 入)	該当 頁数
(その他)						
書道作品		2007・9	中国中央電視台 『同樂五洲』	楷書「北國之春」 最高創作賞受賞(255×82)		
篆刻作品		2007・12	『夢行浙江—留學生作品 展』	篆刻「西泠留痕」(計50顆・135×35×4) 一等賞受賞		
書道作品		2008・8	『四海藝圃—中国美術 学院作品展』	行草「飲中八仙歌」(138×70×6屏風) 二等賞受賞		
書道作品 〔贊助作品〕		2010・6	青葉祭り	大篆「老馬知」(『韓非子・説林上』69× 35)		
書道作品 〔贊助作品〕		2011・2	高野山大学学外書道展	小篆「白樂天答客問杭州詩」(138×70)		
書道作品 〔贊助作品〕		2011・2	高野山大学学外書道展	甲骨文「燕子來春社 梨花落清明」(138× 32×2)		
篆刻作品 〔贊助作品〕		2011・2	高野山大学学外書道展	篆刻 冊頁『野田悟印存』(計35顆)		23
書道作品 〔贊助作品〕		2011・6	青葉祭り	隸書 「四季賛歌」(70×36)		
書道作品 〔贊助作品〕		2011・11	靈宝館もみじの会	小篆「四季賛歌」(72×35、5)		
書道作品 〔贊助作品〕		2012・2	高野山大学学外書道展	楷書「呂遠之詩」(270×85)		
篆刻作品 〔贊助作品〕		2012・2	高野山大学学外書道展	篆刻「野田悟鳥蟲文印選」(計14顆) (14×7、5×14)		
書道作品 〔贊助作品〕		2012・2	高野山大学学外書道展	狂草「四季賛歌」(72×35、5)		
書道作品 〔贊助作品〕		2012・6	青葉祭り	金文「論語(擁也)」(130×23)		
書道作品 〔贊助作品〕		2012・10	靈宝館もみじの会	調和体「利休の言葉」(85×45)		
書道作品 〔贊助作品〕		2012・11	高野山大学学祭	草書「望湖樓醉書(蘇東坡)」(扇子)		

書道作品 〔賛助作品〕	2013・2	高野山大学学外書道展	小篆「南無釈迦牟尼仏」(136×35)		
書道作品 〔賛助作品〕	2013・2	高野山大学学外書道展	草書「文心彫龍(神思第二十六)」(45×670、絹)		
篆刻作品 〔賛助作品〕	2013・4	青葉祭り	篆刻「覺然朱跡」(計12顆) (78,5×35)		

学会等および社会における主な活動		野田
年 月 日		
自2003・3・2 至2010・3・15	杭州朝日外国語培训学校（後杭州朝日外国語専修学校に改名）にて日本語教員として教鞭を執る。（当時の役職として副校長に相当する）過去日本語1級合格者は200名以上を数える。（2010年3月まで）	
2007・9・26	中国中央電視台『同樂五洲』に出演、書道作品『北國之春』（楷書）が最高創作賞を受賞。	
2008・6・18	『杭州朝日外国語専修学校』（杭州政府の認可により専修学校に昇格）の看板を隸書にて揮毫。	
自2010・9・20 至2010・9・23	四国大学日本文学科・書道文化学科大学院生に対する集中講義の同時通訳。講師は江大学金曉明副教授、講義内容は「近現代における中国画と現代書道について」。	
2011・7	「高野山大学いのちのセミナー」・「21世紀医療フォーラム」の広告の題字書き。「物の興廃は必ず人に由る。人の昇沈は定んで道にあり。」	
2012・5	大野修作元京都女子大学教授の論文「拓本の真偽と物語の古層性—曹娥碑と越州石氏本を中心に—」（大野元教授が7月中旬に第四屆啓功書法學國際研討會にて発表）の中国語への翻訳（計9ページ）	
大学行政への係わり（所属委員会）		
平成23年度 (2011年)	就職・進路支援委員会委員 密教文化研究所協議会委員（兼任） 教授会選挙管理委員	
平成24年度 (2012年)	就職・進路支援委員会委員 密教文化研究所協議会委員（兼任） 教授会選挙管理委員 学友会総務本部長	
平成25年度 (2013年)	就職・進路支援委員会委員 密教文化研究所協議会委員（兼任） 人権教育研究会 人権研究会委員 伊都・橋本高大連携授業担当	

所属	高野山大学	職名	助教	氏名	野田 悟	大学院の授業担当の有無 (無)
教育上の主な業績						
	年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	自2010年 至現在	1、書道実技において、「眼高手低、手高眼低」の書法哲学のもと、まず法帖を見ながら目の鍛錬を行い、2つ以上の法帖を比較分析、実践を通じて書風の特徴及びその時代背景を理解する。また形臨、背臨を経て創作までの過程を理解する。〔漢字I〕				
	自2011年 至現在	2、古文字学の一番中心となる『説文解字』の講読を行い、その字源についての学生個々の解釈に基づき、意見を述べてもらう。日常的に使用する漢字において歴史的な視野に基づき、その後の各自の研究の糧になることを必要とする。〔中国文化特殊講義〕				
	自2010年 至現在	3、アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000年前の刻符を文字の起源とし、それがどういう経緯を経て実用及び芸術の域へ昇華して行ったかを中国の書道史を時代的に学びながら解明する。 〔書道史(中国)〕*書道史(日本)との隔年				
	自2011年 至現在	4、我が国における書の展開について講じる。中国からの漢字の伝来を起源とし、その後唐様と和様の隆盛を繰り返しながら変遷する。時代ごとにいくつかのテーマを取り上げながら進めて行き、その他の芸術及び諸々の文化的事柄とも絡めて考察する。 〔書道史(日本)〕*書道史(中国)との隔年				
	自2010年 至現在	5、中国の伝統的な篆刻教育を取り入れ、一番の基礎と言われる漢代を中心とした印章の模刻を中心に実践、理論の双方より学び、最終的に書学との関連及びその特徴をつかみ、それをもとに創作する。〔篆刻〕				
2. 作成した教科書、 教材、参考書						
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等	2012、12、05	高野山大学図書館戸田文化講座 テーマ「中国美術学院より見る日本書道の現在」				
	2013、02、03	書道研究南斗会研修会 テーマ「印(章)、印泥及び鈴印の方法について 於奈良県郡山市 三の丸会館				
	2013、5、26	書道研究璞社 第53回書法研究会 テーマ「現在の中国における書法教育」 於大阪市西田辺 育徳コミュニティセンター				
	2013、7、14	書道研究自琢会、靖和会合同研修会 テーマ「中国留学を振り返って」 於高野山清涼院				
4. その他教育活動上	2011・3	大阪府池田市一乗院にて「中国留学における中国仏教と				

<p>特記すべき事項</p>	<p>(平成23年度)</p> <p>自2003・3 至2010・3</p> <p>自2012・4 至2013. 1</p>	<p>古代文字について」の法話。</p> <p>浙江省杭州市の杭州朝日外国語専修学校にて副校長として日本語教育を行い、1級合格者200余名を数える。 (現在は名誉顧問に就任)</p> <p>伊都高等学校との高大連携学習の一環としての派遣 (月一度、計10回)及び夏休み高野山大学書道部と書道交流</p>
----------------	--	---